

第24回 会長の時間 ポール・ハリスにつきまして 1月26日

先週は、セントヒル病院で職場例会を行いました。菅先生より教わりましたPETがん健診につきまして、家庭や職場で話題にして頂き、がん予防の普及に役立てて頂きたいと思います。そして今、大変流行しているインフルエンザにつきましてその資料を配布しました。2月中旬までは流行が続くと思いますので十分に注意しましょう。

さて、明日の1月27日は、ロータリーの創始者ポール・ハリスの命日です。1990年度からRI理事会は毎年1月27日のポール・ハリスの命日を含む週を、物故ロータリアンの冥福を祈り、生前の貢献を記念する週間として「追悼記念週間」としました。本日はポール・ハリスについてお話をしたいと思います。ポールP・ハリス（ポールパーシー・ハリス）は、1868年（明治元年）4月19日に米国ウィスコンシン州ミシガン湖の南西岸の町ラシーンで生まれました。父ジョージ・ハリスも母コーネリアも豊かな才能の持ち主でしたが、経済観念に乏しく、二人とも大の浪費家でした。父親が経営するドラッグストアの経営が失敗し、ポール・ハリスは、ウォーリング・フォードの祖父母のところへ引っ越します。10数年この町に住み、学校も高校の課程を終え、大学へと進学しましたが、あまり本気で勉強をしないために、パーモント大学から放校処分になりました。19歳の時に彼はプリンストン大学入学し、さらに法律を学ぶためアイオワ大学法学部に進みました。アイオワへ行く途中でシカゴに立ち寄り約1週間過ごしましたが、奔放で活力にあふれた雰囲気に興味をそそられ、将来ここ住もうと心に誓いました。

ポール・ハリスはアイオワ大学の卒業式で行われた講演での話に心を奪われました。その講演者は、10年前に同じアイオワ大学出身の弁護士でしたが、彼は、「人間としての幅を広げるには、旅行をして新しい体験を重ねることが大切である」と力説しました。ポール・ハリスはこの言葉に刺激されて、法律の仕事始める前に、5年間だけ旅行しながらいろいろな仕事を体験することにしました。彼はまず、サンフランシスコに行き新聞社の記者を経験、ロサンゼルスでは、商業学校の教師を勤めました。さらにニューオーリンズに行き、オレンジの摘み取りと荷造りの仕事を、フロリダの大理石会社に在職中は、ヨーロッパに出張し、各国の採石場で石材の買い付けをし、主なヨーロッパの国々を回りました。

旅立ちを決めてから5年後、3ヶ月余りを残して自分の幅を広げるという計画を達成した彼は、シカゴに移り1896年に法律事務所を開きました。シカゴ

での弁護士の仕事は年々好調でしたが、地元ではないシカゴには親友というものがいませんでした。それからしばらく経過した1905年（明治38年）2月23日に、ポール・ハリスは、3人の若い実業人すなわち、石炭商のシルベスター・シール、鉱山技師のガスターバス・ローア、洋服仕立業ハイラム・シヨレーとともに、ローアの事務所で会合を開き、いろいろ議論をして今日のロータリーという組織を作り上げました。

1910年には、全米ロータリークラブ連合会が誕生し、同年8月にシカゴのコンGRESSホテルで第1回の大会が開催されましたが、この大会でポール・ハリスは連合会の会長に、3回目の1912年の大会では名誉会長に就任しました。ポール・ハリスは、その後もほとんど終生にわたり、法律事務所の仕事を続けました。現に彼が1946年まで共同経営者になっていた法律事務所は、今日にいたるまで、シカゴでデービス・アンド・シコルスキーという名称で続いています。さらに、初代RI会長として、また名誉会長としての彼の執務室は、シカゴのRI世界本部にそのまま保存されています。

そしてポール・ハリスは、1947年1月27日に、カムリーバンクの自宅で安らかに78歳の生涯を閉じました。現在、シカゴのマントホープ墓地に眠っています。本日は、ロータリーの創始者ポール・ハリスにつきましてお話ししました。